

古典の極意

三年四組



山本康裕 高校教諭を経て大学の非常勤講師となり、その後、代々木ゼミナール講師として教鞭を執る。その教師生活の中で実トレを始め様々な参考書を出版。

*

実トレの山ちゃんだから、どんないかつい人が来るのだろうとドキドキしていた初授業。そこに現れたのは何とも優しそうな先生の姿が…しかし、さすが山ちゃん。あの時受けた授業は記憶に焼き付いている。そんな山本先生のお話を…。

——山ちゃんといえば実トレっていうイメージなんですが、先生が最初に始めたという参考書と問題集の組み合わせはどうに思いついたんですか？

実トレを出したときの単語帳は「あ」から順に並んでるだけで、中央図書から「今一番売れてる単語帳に勝つような古典の単語帳を作ってくれ！」って言われて引き受けたのがきっかけで。昔から教師やつて持っていた入試問題から、大事な所ちよこちよこって抜き出して、見本を何個か作って、中央図書が「これや！」って言つたのを半年で作つたんですよ。出版して三年目に下カントつて売れて、その頃から他の出版社の社長が「山ちゃんのマネせい！」と言うぐらいマネしました。

——マネされたとき怒りました？

いや、他の会社にマネされても、負けんかつたらいいわって思つたんですよ。どうせ、他の会社のは無くなつていくし…。

——ちょうどそのときの先生がいい人で、新設の学部で4年しか経つてなかつたから京大の若手いい先生を引っ張ってきてて。先生とかお兄ちゃんとか呼ぶような関係やつたけどね。それでも、後には日本一になりますつたからなあ。今はもう一人しか生きれないけど…。

——でも、そんなすごいひとに教えてもらえるのは、すごくいいですよね。

——と、まあ先生も苦手教科を何とかして大学に入ったように、古典が苦手な人はどうしたらいいんですか？

——ああ、それは分かれへん。先生は古典が好きだから、苦手っていうのが分からんんですよ。でも、逃げたらあかん。逃げたら2、3倍でのしかかってくるから、ワトって向かつていった方がいい。あとは、毎日せつせと声に出して読むことやね。

*

——先生が授業の中で教えていきたいことって何ですか？

文法やね。文法が好きやから特に国語史。

——ううん、文法のどんな所が？

奈良・平安・鎌倉・江戸って書き方が違うところ。

——それってすごく細かい作業ですよねえ。先生つてダメですねえ。なかなか出来ないことですよ。

——ダメと言ふか好きだからやれる。今（授業中）に配つてるプリントもそうやしね。

——その寒トレの下の「一言コトナリ」は私たち間でも人気で楽しませてもらってるんですが、どんな風に書いてるんですか？

——コントのところか。あれは一週間ぐらいでちよちよと書き上げたんですよ。（山ちゃんの著書）古典散歩から抜きながら・・・実トレ作るのに単語の意味決めるのが一番しんどいのにみんなコントのところばかり読むでしょう。単語を決めるのに、本来の意味とよく出る意味を見極めるのが大変なんですよ。

——そこで、先生の力の集大成の実トレのうまい活用法は？ それは友達に聞き！…でもまあ、そのたびに見ることやね。用例と一緒に、気合い入れて。分からん単語あればチエックしていけば、ああよくでるんやつて分かるし。何でもその教科にかけた分だけ返つてくるでしょ。恋人ともニコニコしてたら相手もそうしてくれるし、アホって言つたら向こうもアホつていつつくるし、つきあいと比例するんですよ。

——そもそも、何で古典の道を行こうと思つたんですか？

——国語が得意やつて、自分の性格とかを考えて国語の教師にならうと思ったんですよ。親も公立やつたらいいって言つてくれたし。

——国公立だと国語以外もあるじゃないですか、苦手教科はどうしたんですか？

——苦手なもんはしない！数学と理科が苦手やつたから一切してなかつた。けど、友達にやはいぞつて言つてから、頭の良い子にいい参考書選んでもらつた。薄くて基礎だけのやつで、そこの公式は丸暗記して。そしたら、入試の数学六問中二問解けて通つたんですよ。

——それだけ極めてたら古語で喋れるんじやないですか？（笑）

——喋れないよ。練習相手も喋る相手もないからねえ。ここに紫式部いたら話は別やけど。いつも文字ばかりみてるから、書くぐらいやつたら出来るやろうけど。英語の先生でも英語で授業出来る先生は五%ぐらいしかいないし、大学でも五割ぐらいでしょ。

——そういうものなんですねえ、奥は深いんですね。

——奥が深いっていうより、言葉は人間そのものやから、極めるのは無理ですよ。極めようと思つても、そのうち死んでしまうし…。

——（私が考へ及ばないことをいう先生に、改めて感動しました）

——それでは、最後に一つお願いが。
先生がいつもサインするときの様に漢字一文字から文を作つて欲しいんですけどいいですか。

——（岸和田城りお姫のサクランボ）
（イメージました）
（）（）
（）（）
（）（）

日女 滋
せひりひ
りましまさは
太和ひだりた
山川へ直筆